

文化学院の自由と美の思想がこの美術館となりました。この建物は文化学院が誕生した時（1921年）の校舎をほぼ再現したものです。英国のゴッソージ風に創立者西村伊作が設計した楽しい建築と庭園は当時話題となったものです。

この美術館は、大正の夢と風の記念碑として設立されました。この美術館の建物と庭園に見られる質素ながら美しい雰囲気は文化学院創立当時の姿を見せて美の散歩として楽しめるものです。

館長 西村八知

大正の夢と風展

1920年（大正9年）西村伊作は理想的な学校を創る夢を持って信州軽井沢で歌人と謝野寛、晶子夫妻、石井柏亭、赤城泰舒、河崎なつ達と話し合い翌年、東京駿河台に自由と芸術の教育を求め文化学院を開校しました。

創立当時の文化学院を取り巻く自由と美の思想の姿が「大正の夢と風展」として展示されています。

文化学院創立者

西村伊作

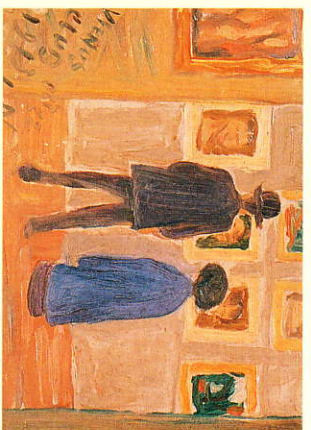
西村伊作は紀州の資産家として育ち、若い時から油絵を描き、陶器を作り、欧米の生活様式を紹介し、建築事務所を持って、住宅・学校・教会などの設計をしました。

また多くの著書も出しています。

伊作は常に、「小さくても良いものを」「高価なものよりも美しいものを」と云って、これは文化学院の教育にも表現されています。教育は、当時の一流の芸術家、学者、識者によってなされました。



陶芸を楽しむ西村伊作



展覽会場の与謝野夫妻

西村伊作 画

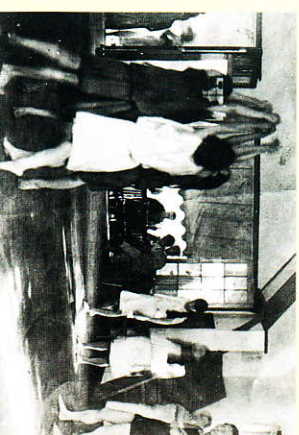


文学部長 佐藤春夫

西村伊作 画



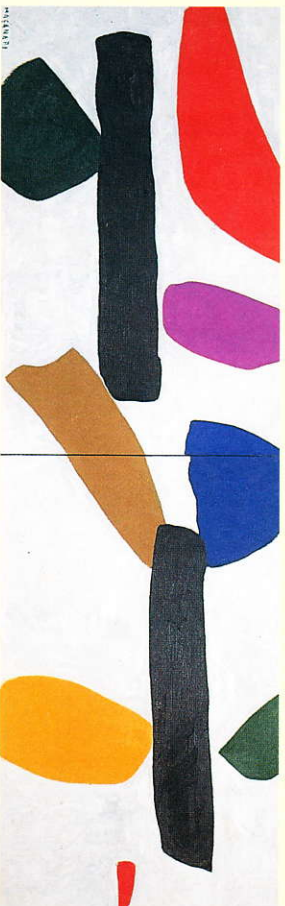
屋外写生の指導をする美術部長 石井柏亭



山田耕伴のリトミツクダンス指導

村井正誠展

MURAI MAÇANARI



ほしる人 1991

我が国の抽象画のパイオニアでもある村井正誠の作品展が行われます。抽象画の世界でもこれほど大らかで人間味を持った芸術家は数少ないものです。村井正誠は文化学院の第1回卒業生であり永らく美術科の指導をされた方です。92才の現在もお旺盛に制作と発表を続けられている画家です。